



かみのせき 議会だより

2013
7/26

No.123



七夕通り（上関 戎町）

平成 25 年 6 月定例議会

議案	専決処分の承認について -----	2P
	24年度一般会計・特別会計の補正予算	
	町税賦課徴収条例・国民健康保険税条例の一部改正	
	25年度一般会計補正予算	
	町議会委員会条例の一部改正	
	人権擁護委員の推薦	
	繰越明許計算書、土地開発公社の決算、業務報告	
一般質問	（4名が8件を問う） -----	3～6P
編集後記		

24年度補正予算 条例の一部改正 25年度補正予算



議案

平成25年度第2回定例議会は6月13日から21日までの9日間の会期で開かれた。提出議案は、平成24年度一般会計、特別会計の4会計の補正予算、平成25年度一般会計の補正予算、条例の一部を改正2件の専決処分承認、条例の一部改正1件、諮問1件、報告2件が提出され、原案のとおり全議案を可決した。

専決処分の承認

24年度補正予算

一般会計補正予算は補正額として1千373万7千円を減額し、歳入歳出の予算総額を42億1千245万5千円とする。

歳入の主なものは、地方交付税のうち特別交付税の増、基金からの繰入金の減である。

歳出の主なものは、用地取得事業会計への繰出金の減、国民健康保険事業会計への繰出金の増である。

国民健康保険事業特別会計の補正予算額は1億16万2千円を増額し、7億342万2千

25年度補正予算

一般会計補正予算は歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ149万2千655千円を減額し、7億83万5千円

円。

介護保険特別会計の補正予算額は1億1万2千円を増額し、6億5千632万5千円。

航運事業特別会計の補正予算額は69万5千円を増額し、3千497万7千円。

用地取得事業特別会計の補正予算額は2千926万5千円を減額し、7千83万5千円。

0万円を追加し、歳入歳出をそれぞれ38億7千40万円とする。

条例の制定

○町税賦課徴収条例の一部改正

徴収金の納付または納入の指導をする場合は、責任者を明記の上、目的、内容について文書で明示する。

○国民健康保険税条例の一部改正について

特定継続世帯は平成25年3月31日まで世帯割額を半額とする措置



元気に奉仕活動する高齢者

(別表1) 平成24年度上関町繰越明許費繰越計算書 (円)

款	項	事業名	金額	翌年度繰越額	左の特定財源		
					既収入特定財源	未収入特定財源	一般財源
農林水産業費	水産業費	漁港水産物供給基盤機能保全事業	30,000,000	24,045,000		23,949,500 県地 13,849,500 地 10,100,000	95,500
計		1件	30,000,000	24,045,000		23,949,500	95,500

を、4月1日から軽減割合を現在の1/2から1/4とし、3年間延長する。

条例の制定

○上関町議会委員会条例の一部を改正する条例

「産業振興課」を「産業観光課、土木建築課」に、「民生課、高齢者保健福祉センター」を「保

諮問

○人権擁護委員の推薦について

村田景昭氏の任期が平成25年9月30日で満了となるため、玉木光宏氏を推薦した。

報告

○平成24年度上関町土地開発公社の決算及び業務等の報告
用地取得、売却なし。

○繰越明許費繰越計算書について(別表1)

用語説明

繰越明許費

毎年度の予算に事業の完了を予定、予算化しているが特別の事情で工事等が遅れ年度内に完了できない場合がある。そこで、会計年度独立の原則の例外として、予算で定めて翌年度に繰り越し経費の支出ができる。

一般質問

地域活性化について

町長直轄の活性化チームの設置を

答 有効な手段の一つと考える



山根 善夫 議員

の設置を考えては。

町長答弁

産業振興と雇用の確保は喫緊の課題と考える。機構の再編により産業観光課を中心に各課を横断し農業、漁業、商業、観光を一体

化し所得の向上に向けた地場産業再生を目指したソフト部門の強化を行い産業振興の取り組みを支援する。地域の再生と活性化に向けてチャレンジしていく中で今回の提案は地域活性化する上で有効な手段の一つであると考える。

組織改編により、情報発信の強化あるいは地場産業を一体化した産業振興に取り組むものと期待している。これらを進めるためには、後継者の問題、農地の保全対策、地域の資源を活用した所得の確保などの環境整備への支援も必要となると考える。そこでこれらの事を議論できる地域の若者を中心とした町長直轄の活性化チーム



花咲く海の町（瀬戸）

原発再稼働について

リスク情報に対しての調査・開示が必要では

答 立地自治体の理解が必要不可欠だ

質問

規制委員会が安全を認めた原発は「再稼働を進める」と明記されている。原発の安全

町長答弁

性を確認するには住民による安全対策は万全かの判断が必要だ。安全対策に関して不完全な点やそれらによる具体的なリスク、予想される混乱について明示し、リスク情報をすべて開示し住民がどのように考えるか調査すべきだ。そうでないと福島島の事故の教訓を生かしたとは言えない。

今のところ国から本町へ再稼働の方針や考え方は示されていないし、情報が薄い中でこの質問に対する答弁は正直苦慮している。再稼働にあたっては最低でも立地自治体の理解が必要不可欠であると思う。再稼働の判断は、あくまでも立地自治体がすべきであって、本町は立地自治体でないがゆえ、私が考えを示すのはいかなものかと思う。

県道光～上関線

早期整備を

答 取り組んでいくと聞いている



篠川 源次 議員

県道光～上関線は梅雨の大雨で年度災害を引き起こし交通に支障を起たしていた。これらの復旧工事を重ねる度に改良が加えられ今日ではかなり改善されているものの、まだ改良すべき所が多く残っている。その中で特に蒲井工区は、工事が中断したまま全く進んでいないように見受けられるが、町は県に対してどのように要望し聞いているのか。

質問



県道光～上関線（赤石工区）

町長答弁

蒲井工区は、擁壁基礎の支持基盤の問題で設計変更をせざるを得ない状況で、赤石工区も含め平成26年度予算での完成を目標に、福浦地区の長島工区は、今年度予算で完成予定。

測量調査をした室津工区は、さらに詳細な測量調査及び地域調査等を実施した上で、できれば今年中には道路計画について地元への説明等を予定していると聞いている。

松の保護は

答 風光明媚なおもてなしの場所に

質問

本町は美しい景観でこれらに加えて住民が四季折々の美しい花を咲かせて、町内外からの人々の心を和ませている。これら美しい町づくりに苦労されている中で、大変残念なことに、特に大橋付近と大久保～稲積線脇の大きな松が枯死している。町の風光を保つ上で欠くことの出来ないこれらの松の枯木防止対策等を行ったのか、行っていないのならその理由を。

町長答弁

松くい虫被害でなく最近では大気汚染や酸性雨が原因であるとも言われており、全国的な問題だ。平成元年～3年まで薬剤の地上散布を実施していたが、人体被害等が懸念されることで平成4年、5年には駆除事業が変更され、松くい虫に強い品種の植えつけ等を行い保護対策を講じてきた。本年度伐採費用を計上しており、遊歩道等の整備も行う。



上関大橋周辺の枯松



河村 満生 議員

どうするの 空き家・廃屋の管理条例は

答 空き家・廃屋問題を研究会で

以前、広がる空き家・廃屋に危惧し、空き家等の適正管理に関する条例制定について一般質問をしたが、その後、中国地方の自治体では過疎化で空き家が増え、廃屋予防のための条例制定の輪が広がっているという。町は先進地の状況を把握され、勉強されたと思うので、今後の空き家等の適正管理に関する条例について、どのよう

質問



廃屋

町長答弁

県内の条例化している市町に問い合わせた結果、空き家の所有者や相続人の責任意識と経済的な問題、家屋解体による税の軽減措置の問題など、いずれも現行の制度の中では、一自治体では無理があり国県市町が一体となって取り組むべきとの意見が大半。この条例の問題について議員の皆さんが了解なら研究会をつくりお互いに意見交換をし、共に考えたい。

質問

私は3年前の初議会一般質問で、町民総参加のまちづくりを目指した対話集会を行うため、地区懇談会の開催を要望した。再び先の3月議会の一般質

「地区懇談会」の開催は 答 地区懇談会の要請はないが、対話が必要

町長答弁

問の中でも懇談会を要望し、町長も町民との対話は必要であるが、自治会にお世話になるので、自治会長集会で問いかけてみるという。その結果を踏まえ、懇談会の開催をどのようにお考えか。

町民に町行政を理解してもらうには懇談会や対話は大変重要だと思う。それで、先月開いた自治会長集会で地区懇談会の開催について諮って見たが、開催の要請は特になかった。自治会長さんの意向に沿わない形での開催は本意と考える。これからも、いろいろな場合で丁寧な説明を心がけ、町民との距離を縮める努力をしていきたい。

その他

バス停の待合所の設置について



防長交通バス停（福浦）

祝島の防災計画は

原子力政策に危惧

答 一自治体の首長として口にすべきではないと思う



清水 敏保 議員

質問

福島原発事故より2年以上経過したが、今も故郷に帰れず避難生活を余儀なくされ、毎日が苦しい不安な生活を強いられている。そんな状況下で安倍政権は、原発の海外輸出、再稼働と安全な生活より経済優先を進めているが町長の見解は。また、伊方原発の30km圏内である八島は、地域防災計画を策定しているが、同じ離島の祝島の防災計画の策定は。

町長答弁

原発を海外に輸出しようとする政策は、国と国の交渉で、一自治体の首長として全てをわからずして、口にすべきではないと思う。再稼働は、原子力規制委員会が安全性について構造的・技術的に安全を確認できれば再稼働の一つの判断と思う。祝島は、国の指針の伊方原子力発電所より30キロ圏内でなく、今は県も町も計画を策定する考えは持っていない。



伊方原子力発電所

暑中お見舞い申しあげます

熱中症には十分気をつけられ
ご自愛ください

議会議員一同



編集後記

今年の梅雨入りは早かったものの、雨が降らずカラ梅雨になるかと思っていました。ほどよく雨が降り水不足の心配はなくなりました。農家の皆さんは田植えやビワもぎを終えホッと一息ついたところでしょう。

6月の定例議会も無事に終わり、恒例の水軍まつりや子どもたちが楽しみにしている夏休みがやってきました。

今年の夏も猛暑が続いていますので、皆さん十分な健康管理をされ、暑い夏に負けないようお過ごしください。

議会広報広聴特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 西 哲夫 |
| 副委員長 | 嶋尾 忠宏 |
| 委員 | 岩木 和美 |
| 〃 | 海下竜一郎 |
| 〃 | 河村 満生 |
| 〃 | 山根 善夫 |